

ナカラ港周辺のインフラ開発動向

1. ナカラ港周辺の開発状況

モザンビーク北部のナカラ港周辺においては、JICA が支援するナカラ港開発事業、ナカラ回廊道路整備事業、VALE が実施しているナカラ新港（Port of Nacala a Velha）建設事業（以下、ナカラ新港と略）とナカラ回廊鉄道建設事業、ナカラ新空港整備事業、ナカラ上水整備計画などが進められている（右図）。



(1) ナカラ新空港の整備

ブラジル政府の支援で建設されていたナカラ新国際空港は、2014年12月13日、新空港の開設式が執り行われた。ナカラ空港整備事業は、144百万ドルの事業費で、ブラジルの Norberto Odebrecht 会社が建設した。ナカラ新国際空港では、ボーイング 747-400 が乗り入れ可能であり、航空需要 50 万人/年規模に対応している。現在、マプトーナカラ間は、週 5 回（月、水、木、金、土）就航している。将来的には、ヨーロッパやアジアへの国際便の乗り入れや、マラウイ、タンザニア、ザンビア、ジンバブエのリージョナル・ハブとしての機能が期待されている。

(2) ナカラ港開発事業

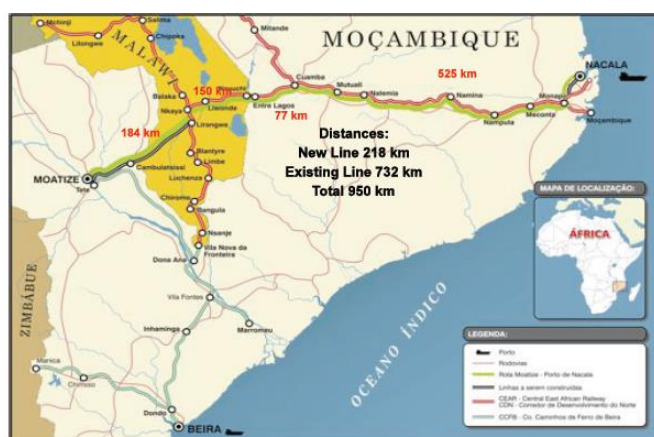
現在のナカラ港は、ナカラ回廊の起点として、モザンビーク内陸、マラウイ、ザンビアへの物流のゲートウェイとして機能している。ナカラ港の一般貨物ターミナルは、200 万トン/年を処理している。コンテナ・ターミナルは、現在、3 万 TEU/年の貨物処理能力がある。

2013 年には、JICA とモザンビーク政府との間で「ナカラ港開発事業フェーズ I」の借款契約（L/A、78.89 億円）が調印された。本事業では、泊地浚渫、アクセス道路の建設、ヤードの舗装などに係る土木工事、港湾荷役機材の調達及びコンサルティングサービスからなる。本事業の実施により、2019 年に貨物量は 473 万 8,000 トン、コンテナ貨物量は 23 万 4,000 TEU になることが予測されている。本事業の調達条件は、一般アンタイドであり、コンサルティング調達は昨年実施され、日本のコンサルタントが受注した。フェーズ I を含めたナカラ港開発事業は、約 300 億円と見込まれている。

その他、一般液体ターミナルも敷設されており、石油会社の BP 及び Petromoc の石油貯蔵施設、3.5km の石油パイプライン、パーム油貯蔵施設がある。

(3) ナカラ回廊鉄道・新港湾インフラ事業

石炭の産地であるテテ州モアティゼ（Moatize）とナカラ港を結ぶナカラ回廊鉄道事業は、ナカラ新港に石炭専用のターミナルを建設して、モザンビーク北部の既存鉄道を改修するとともに、新設の鉄道路線を敷設し、石炭の輸送ルートを整備する事業である。鉄道ルートの総延長は 912km である（右図参照）。ナカラ鉄道整備では、新設区間であるモアティゼ-Mwanza（モザンビーク）-Nkaya（マラウイ）と、既設区間である Nkaya -



ナカラ回廊鉄道・新港の整備

Monapo（モザンビーク）の改修、新設区間の Monapo - Nacala a Velha 区間とナカラ新港建設からなる。コンサルタント会社「Aurecon」が VALE の委託により事業実施計画を実施した。ナカラ回廊鉄道とナカラ新港の事業費は、44 億ドルであり、石炭の輸送能力を年間 18 百万トン、一般貨物量を 4 百万トンまで向上することが計画されている。本事業は、モザンビーク鉄道港湾公社（CFM）とモアティゼ炭鉱の VALE による PPP 事業として、Corredor Logistico de Nacala (CLN) が事業運営をしている。

2015 年 12 月 9 日、VALE は、モアティゼ炭鉱の 14% 持分、CLN の 35% 持分を三井物産に売却することを発表した。CLN の持株は、VALE35%、CFM30%、三井物産 35% となる。三井物産のナカラ回廊鉄道と新港建設事業への投資額は、313 百万ドルと報道されており、本邦の金融機関及び海外の公的金融機関からのプロジェクトファイナンスにより資金調達することが予定されている。

ナカラ回廊鉄道及びナカラ新港の開設は、2014 年 12 月に完成を予定していたが、ナンプラ-クワンバ間の洪水被害等により、ナカラルートでの原料炭の輸出は、まだ実施されていない（今年中に実施される見込み）。ナカラ回廊鉄道建設は完了しており、機関車による試運転が昨年 11 月に実施された。

（４）ナカラ市における水供給インフラ

ナカラ市周辺の人口は、2014 年の 18.2 万人から 2035 年には 83 万人と短期間で 4 倍以上に急増することが見込まれている。アメリカの MCA の援助によるナカラダムのリハビリ事業と世界銀行による処理施設・配管整備により、水供給量は 25,000m³/日まで増大する予定であるが、右供給量は 2017 年までの水需要しか対応しておらず、2035 年までには更なる水不足が深刻化することが予想されている。

2. 日本企業の参加機会

上記の通り、三井物産がナカラ回廊鉄道整備事業への投資を行っているほか、ナカラ新港への石炭輸送に係る参加の機会（機関車などの納入等）がある。

JICA が支援するナカラ港開発事業では、一般アントイド入札であるものの、建設事業の入札において、日本企業の参加の機会がある。

3. 担当窓口

組織	担当者名	連絡先	備考
運輸通信省	Ana Dimande, Project Director	+258-82 5305868	ナカラ港開発事業及びナカラ新港のコーディネータ（責任者）。CFM 担当者からも、Mrs. Dimande と連絡を指示された。
モザンビーク鉄道港湾公社 (CFM)	Joao Mateus Mabota, Engineering Director	+258- 21- 313 664 +258-82 4023400 (secretary) Email: joao.mabota@cfm.co.mz	CFM のナカラ港担当者。
Porto de Nacala	Agostinho F. Langa, Executive Director	+258 - 26526216	ナカラ港運営会社の責任者。